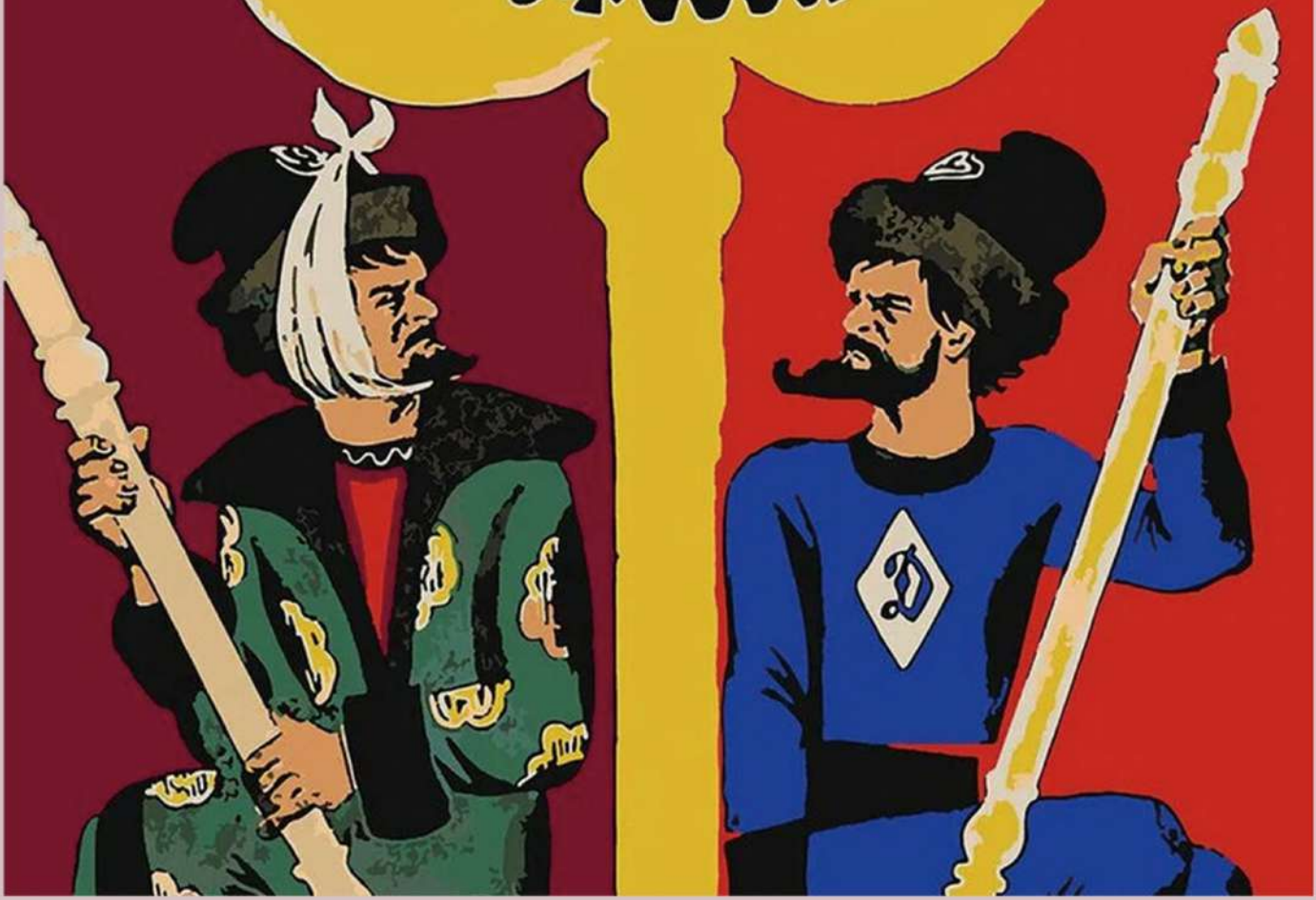


イワン・ワシリエヴィチ

ИВАН ВАСИЛЬЕВИЧ
МЕНЯЕТ
ПРОФЕССИЮ

転職する




上映会『イワン・ワシリエヴィチ 転職する』（1973年ソ連）

レオニード・ガイダイ監督 原語：ロシア語／日本字幕：守屋 愛

日時：2023年6月26日（月） 16:50上映開始（上映時間90分）

場所：東京大学本郷キャンパス 法文2号館2番大教室

無料一般公開

協力：モスフィルム 

レオニード・ガイダイ監督 生誕100周年記念上映 第1弾!



あらすじ

原作はミハイル・ブルガーコフの戯曲「イワン・ワシリエヴィチ」。
発明家のアレクサンドル・チモフェエフ(愛称:シューリク)がタイムマシーンを設計して作動させた。彼の家は、遠い16世紀のイワン雷帝の御殿とつながるが、そちらの世界に雷帝と同名の住宅管理人イワン・ワシリエヴィチ・ブンシャと泥棒ジョルジ・ミロスラフスキーが行ってしまう。彼らの代わりに、偉大なる君主が20世紀にやってきた!タイムマシーンが壊れて、予期せぬ可笑しな事件が次から次へ…

(SPUTNIK日本) **2022年ロシアで人気No.1の映画!**



レオニード・ガイダイ監督 (1923年～1993年)

ソビエト連邦・ロシアを代表するコメディ映画監督。極東州スヴォボドヌイ生まれのウクライナ系ロシア人。ソ連人民芸術家。

映画「作戦H(はい)とシューリクのその他の冒険」(1965年)、「コーカサスの虜 またはシューリクの新たな冒険」(1966年)、「ダイヤモンドの腕」(1968年)はそれぞれソ連興行収入第1位を獲得。70年代には作家イリフ＝ベトロフの「12の椅子」、ミハイル・ブルガーコフの「イワン・ワシリエヴィチ」などの文学作品を映像化した。最後の作品「デリバソフスカヤ通りは晴れ またはブライトンビーチはまた雨」(1992年)にはみずからカメオ出演している。



※東京大学文学部の授業「旧ソ連・東欧の映像と文学」の一環として
上映されますが、一般の方もご鑑賞いただけます。直接会場へお越しください。
主催:東京大学文学部スラヴ語スラヴ文学研究室/エース・スクエア
(<https://www.l.u-tokyo.ac.jp/slav/>)

